

[会 議 録]

会議名	令和6年度～令和7年度 第3回鹿屋市社会教育委員の会議
開催日時	令和7年2月13日（木） 10時20分～12時00分
場所	鹿屋市役所7階 大会議室
出席者	社会教育委員：永迫昌毅、満田忠、宮下義昭、上籠司、東別府睦、森元順子、 宮下恵子、濱田快斗、川原恭子、鶴園容子、松永太郎 事務局：生涯学習課：宇井課長、田中補佐、江口係長、中村、山元、迫田 【計：17名】

議 事 要 旨

- 1 開会（田中補佐）
- 2 市民憲章朗読（田中補佐）
- 3 教育委員会あいさつ（宇井課長）
- 4 事務局説明（江口係長）
- 5 協議（全体会 議長登壇：宮下委員）
 - (1) 保護者が語ることができる場の設定について
 - (2) 関係部署の関わり&家庭訪問によるアウトリーチ
 - (3) 家庭教育学級の在り方
 - (4) ネーミングのアイデア
- 6 諸連絡等（江口係長）
- 7 閉式のことば（田中補佐）

(1) 保護者が語ることができる場の設定について

事務局 （江口）	・保護者が自由に語ることのできる場「子育てサロン」を進めていきたい。 ・小学校の入学説明会で設定し、日程が重なる場合は家庭教育学級で設定したい。 ・その校区の中で子育てを行った方を「家庭教育サポーター」として子育てサロンに派遣したい。
東別府	・私も子供が小学校に上がる前はとても不安だった。入学説明会はほとんどの保護者が来るので、この場で自由に語る場を設定してくださるのはとてもいい。 ・話すのが苦手な方もいるので、上手にゲームを取り入れたりして、入り込める形をとってもらえたら嬉しい。 ・子育ては大変疲れるが、横の繋がりができると一気に楽しくなるので、悩みを言える場ができるのは本当にいい機会と思う。 ・家庭教育サポーターもその地域の方というのが本当に大事だと思う。
永迫	・家庭教育学級の参加が少ない中、ほぼ全員が参加する場として入学説明会にスポットが当たってるのはすごくいいと思う。 ・日程が重なったとしても、家庭教育学級ではなく、何らかの方法で、入学説明会にすべての学校でグループワークの場が設けられるような手立てができればいいと思う。
宮下 （義）	・今はインターネットもあり、いろんな情報が飛び交っていて、子供たちの教育においても様々な場が提供されている。保護者も色んな情報を知っているので、そういうのをざっくばらんに言える雰囲気づくりが大事だと思う。

(2) 関係部署の関わり&家庭訪問によるアウトリーチ

事務局 (江口)	・家庭教育の重要性を伝えるため、保護者にどういう場面でどういう働きかけができるかということについてアイデアをいただきたい。 ・前回、家庭訪問を復活できないかという意見があった。家庭訪問は学校の先生がするものという固定観念があったが、私たちが知らないだけで、地域の方等、色々な機関で行われている家庭訪問的なアプローチの情報も含め、この中で話し合っていたきたい。
宮下 (恵)	・私が知っている中では、母子保健推進員が行う家庭訪問、これが母子推進の方での家庭訪問になると思う。また、ブックスタート事業、乳幼児健診等もある。また、学校が行う家庭訪問は、実施している所としていない所がある。 ・家庭訪問という形を、どうすればよりよいものができるか、ご意見を賜りたい。
鶴園	・民生委員として、心配に思うご家庭を訪問しても、なかなか門を開けてもらえないこともある。 ・子どもたちの見守りをし、子どもたちが声をかけやすい地域の人になろうとしているところだが、校区が広く人数が多いので、なかなか十分にはいかない。
上籠	・町内会では、行事の会合等で、町内会長だけ集まって親御さんが集まらず、意見を貰えないため、どういう問題があるのかも分からない状況がある。
川原	・保護者の立場として、家庭訪問がないのが困るという声がある。コロナがきっかけでなくなり、今は保護者が学校に出向いて面談している。(教育相談) ・問題がある家庭ほど、家が片づいていない等、環境を見て分かることもあるので、せめて小学校の家庭訪問は、どの学校もしていただきたい。 ・家庭訪問には保護者と接触する機会という意味合いもある。誰かが家庭訪問をする、学校の先生方プラス地域で家庭を見守るという体制が大事だと思う。
東別府	・鹿屋市は、とてもすごいことをされているのに、私たち保護者が知らないことが結構ある。後になって知ることも多い。なので、母子手帳を貰った後、パパママ教室等のタイミングで、悩んでいるお父さんお母さんにはこういうのがありますよという案内ができたらいと思う。
満田	・以前勤めていた市町村では、健診ごとの記録をとり、気になる子は入学後に学校長に直接話が来たりと、福祉と学校の連携が図れていた。 ・家庭訪問については、これを元に戻すためにはまたエネルギーが要るということで、一長一短すぐにはできないことではないという懸念もある。

(3) 家庭教育学級の在り方

事務局 (江口)	・家庭教育学級の参加が少ない中、どうすればいいか意見をいただきたい。
宮下 (義)	・私の幼稚園では、家庭教育学級を、今年はお母さんたちがもっと自由にしたいということで、梅干しづくりなど、自由な雰囲気で行っていて参加者も多い。
森元	・自分が小学生を持つ親だったらと想像して、次の内容は興味をもってもらえたり必要だったりするのではないか。一つ目、CAP（子どもへの暴力防止）の研修。二つ目、発達段階に応じた性教育。三つ目、コミュニケーション能力を高めるための家庭教育学級（Iメッセージ）。四つ目、子育てに役立つアプリ紹介。五つ目、クイズをする時間。地域や学校についてクイズ形式で出して、その地域、学校を知っていきましょうという時間。六つ目、食に関する話。最後に、夢の話。ちょっとしたお菓子を用意して、皆で夢の話をするカフェをする。子供のころの夢や、今の夢、現在勉強していること等。席は丸くした方が

	話しやすい。 ・平日どうやって人を集めるか。授業参観の後等、工夫が必要という問題がある。
鶴園	・鹿屋ふるさと検定のように、〇〇小学校検定を作り、事前に学習会を開いたりしてもいい。 ・親同士が喋れる場が必要だと思うので、秋のバザーで子育てについて話ができるブースを設けたりしてもいい。
永迫	・楽しいこともしないと参加者は来ないと思うが、保護者が知っておくべき内容というのもしない、そこは欠かすことができない。 ・しかし、来ないというのが問題なので、どうすればいいかというのが今の課題になっている。また、CMの問題もあると思う。
宮下 (恵)	・街中の大きなモニターに「子育てで悩んでいる人はこちら」のようなものを、映しておけばどうか。そういうのは見ないようで目に入る。
満田	・参加者が増え、文化的な資質が高まっていくためには、機会を沢山提供するのが大事。鹿屋のアプリやLINEで来るイベントの情報等を皆が見るようになればいいと思う。 ・家庭教育学級について、団体で取り組んでもらうにはお金が必要になる。 ・イベント等のチラシ等が市から学校へメールで来て、保護者にもメールで送ってくださいと言われますが、学校はそういう方法がないので、白黒印刷して配布している。でも、元のチラシのような綺麗なカラーで配れば、貰った人も行くかもしれない。やり方の見直しが必要。

(4) ネーミングのアイデア

東別府	・娘が心理学を少し学んでいて、温かいとか冷たいという言葉は、心に響くんだよという話になった。そこで、ひらがなと漢字で「あった会」としたら、耳で聞いた時のイメージと、目で見たときの違いがあり、インパクトがあっていると思う。
濱田	・擬音、例えばハグすることを「ぎゅっと」と言ったり、そういうのは聞いた時の音のニュアンスで雰囲気が出るからいいと思う。
松永	・作品のタイトルを付けるときの裏技で、サブタイトルをつける方法がある。タイトルが堅ければサブタイトルを柔らかくしたり等。
宮下 (恵)	・長時間のご協議ありがとうございました。今話し合ったことを次年度の家庭教育支援事業に生かしていただきたいと思います。